

講義名	オ)ファッション文化論			
担当教員	野口 正孝			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>ファッションとは狭義の意味においてはアパレル=衣服を表すが、広義の意味において、衣服だけに留まらず、バッグやアクセサリーなどのスタイリングアイテム、ファッション雑貨も含めて表すのが一般的である。また、ファッションを身体装飾としてとらえると、化粧やタトゥー、ピアッシングなどの身体に直接装飾することもファッションに含まれることができる。</p> <p>神戸市は1979年、日本で初めてファッション都市宣言（ファッション都市化構想）をした。その中で神戸市は、ファッションを生活に密着し与える衣・着・住・遊にわたる生活文化として定義した。ファッション文化の形成には、時代の背景や美意識、生活意識やライフスタイルが密接に関連している。本講義では、この脈絡の中でファッションとはどのような特性をもってこれまで変化した、今後とも変化したいくのか、生活文化としてのファッションの視点で考察する。</p>				
到達目標				
<p>(1) ファッションの源流である西洋の服飾の変遷を基礎知識として修得し、今日のファッションの有り様を客観的に把握することにより、ファッションの変化を文化として理解出来るようになる。</p> <p>(2) 嗜好変化の著しいファッションを人と生活・芸術・文化への関わりの中で体系的に捉えて分析、考察することが出来るようになる。</p> <p>(3) 多様なメディアであふれるファッション情報に振り回されることがなく、その動向を短期的な流行や嗜好に流れ、背景を分析し、客観的で冷静に捉える意識を持つことが出来るようになる。</p> <p>(4) ファッションは、「モノ」そのものが持っている価値とは別に、ストーリー、スタイル、イメージといった「コト」を付加し、価値を高めてきた。プライダルの業界において、どのように付加価値を創出できるのか、考えることが出来るようになる。</p>				
提出課題				
毎回の講義では、テーマに基づく講義の要点、ファッション文化に関わるトピックスをテーマに基づいて考察する小レポート、および学期末に行われるレポート試験を提出課題とする。				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
講義の始めには各種メディアで紹介されるファッション文化に関わるトピックスを紹介、解説をする時間を設ける。その中で、前回に提出された小レポートで興味深いものを紹介し、コメントを加える。				
評価の基準				
小レポート：50%、レポート試験：50% 小レポート、およびレポート試験においては、独自の視点、考察を高く評価する。				
履修にあたっての注意・助言他				
<p>コロナ禍の中、世界では私たちが予測していなかったことが起き、社会はこれまでとは異なる大きな変化が求められている。</p> <p>本講義の履修者は、社会の変化を前でも感じ取るため、各種メディアにアンテナを向け、情報収集を日常的に行い、世界の動向の変化を認識してください。その上で今日、人々はファッションに何を求めているのか、ファッションはどのように変化していかなければならないのか、考えよう。</p>				

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
<p>講義の部活、資料や画像を用いたレジュメを配布する。</p> <p>また、関連画像はパワーポイントで説明する。</p> <p>参考文献：『世界服飾史』深井洋子 美術出版社</p> <p>『ちくはくな身体』黒田清一著 筑摩書房</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：生活文化としてのファッション 2. 西洋服装史にみる服飾の変遷1：先史時代、古代 3. 西洋服装史にみる服飾の変遷2：中世 4. 西洋服装史にみる服飾の変遷3：近世、近代 5. 西洋服装史にみる服飾の変遷4：現代1（現代ファッションの芽生え） 6. 西洋服装史にみる服飾の変遷5：現代2（モダニズム） 7. 西洋服装史にみる服飾の変遷6：現代3（ポスト・モダニズム） 8. 日本における洋装文化の変遷：明治、大正、昭和、平成 9. ファッション文化1：セクシャリティとジェンダー 10. ファッション文化2：普及（世界標準服） 11. ファッション文化3：ジュースとジュウツ 12. ファッション文化4：ブランド（ファッション・システム） 13. ファッション文化5：ファッションカラー（流行はどのようにして作られるのか） 14. ファッション文化6：ストリートファッション（アイデンティティとしてのファッション） 15. まとめ 				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク			
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク			
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>予習 次回の講義の内容を参考文庫、あるいは信頼できるweb SITEで調べ、どのような特徴があるのか概略を把握する（60分）。</p> <p>復習 講義した内容を配布した画像と照らし合わせて理解する（60分）。</p> <p>講義で示したキーワードが今日のファッションの中にもどのように見られるのかりサーチし、画像と共にスクラップする（60分）。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日ファッション産業において、プライダルのファッションはファッションの一分野として注目され、成長している。ファッションの変化を文化として理解することは、プライダルのファッションの動向を把握し、新たな価値を自ら作り出す想像力と提案力を身につけるために必要である。 2. プライダル・ビジネスは、ファッションとの結びつきが強く、プライダルのファッションなしには存在しない。ファッションを体系的に捉えて分析、考察することは、プライダル関連企業での就業に必要な知識を修得することでディプロマ・ポリシーに貢献する。 3. ファッションは常に新たな「コト」を生み出すことで付加価値を創出して、発展してきた。プライダルのビジネスに関わる新たな付加価値の創出のためにはファッションの動向の把握は不可欠である。 				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
<p>実務経験あり。</p> <p>アパレルメーカーにおいてファッションを生み出す専門家として得た経験から、「プロダクトアウト」と「マーケットイン」の両方の視点から今日のファッション文化を具体的に解説する。</p>				
備考				